2026年度　国風第一幼稚園　教育課程

教育目標

① 自分のことは自分でできること
② 「おはよう」の挨拶ができること
③ 「ありがとう」と、すぐにお礼を言えること
④ 人の目を見て、しっかりとお話を聞けること
⑤ 自分の思ったことを、言葉で伝えられること

保育者のこころえ

✧ ありのままの子どもを受け入れ、一人一人の子どもたちの育ちを理解する姿勢を失わない。
✧ 子どもが、身近な環境と主体的に関わり、心動かされる体験を重ねる中で試行錯誤したり、色々考えたり出来るよう、環境構成や援助を工夫する。また、この環境が子どものどんな力を育てるための物なのか見通しを持つ。
✧ 1.計画(PLAN),2.実践(DO), 3.評価・振り返り(CHECK)、4.改善(ACT)のPDCAサイクルで保育内容や指導方法を常に見直し、保育実践力の向上を心がける。
✧ 「非認知的能力」＝目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など、測れない力が園生活の子ども主体の遊びの中で身に付いて
いくことを理解し、十分な遊びの時間や環境を整える。
✧ 保護者の方との信頼関係を築き、協力し合って子どもの成長を見守り、援助し、その成長を喜び合う。

Ⅰ　幼児期に育てていきたい「資質・能力」の3つの柱

〔生涯にわたる生きる力の基礎を培うことを目指す〕
(1)知識及び技能の基礎(感じたり、気付いたり、分かったり出来るようにする)
(2)思考力・判断力・表現力等の基礎(気付いたことや、出来るようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする)
(3)学びに向かう力・人間性等(心情、意欲、態度が育つ中で、より良い生活を営もうとする)

※この3つの柱が、保育内容の5つの領域の活動を通して育っていきます。

Ⅱ　5つの領域

〔3つの柱を幼児の生活する姿から捉え、幼児の発達の側面からまとめて示したもの〕

■ 健康

〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う〕
ねらい
(1)明るく伸び伸びと行動し、充実感をあじわう。
(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しを持って行動する。

■ 人間関係

〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う〕
ねらい
(1)幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
(2)身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。
(3)社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

■ 環境

〔周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力〕
ねらい
(1)身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ
(2)身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
(3)身近な事象をみたり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

■ 言葉

〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う〕
ねらい
(1)自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。

(2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
(3)日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

■ 表現

〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする〕

ねらい

(1)色々な物の美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

※ 各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものである。

Ⅲ. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10項目)

1. 健康な心と体(領域「健康」)
幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

2. 自立心(領域「人間関係」)
身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる。

3. 協同性(領域「人間関係」)
友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

4. 道徳性・規範意識の芽生え(領域「人間関係」)
友だちと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、決まりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

5. 社会生活との関わり(領域「人間関係」「環境」)
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会のつながりなどを意識するようになる。

6. 思考力の芽生え(領域「環境」)
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予測したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友だちの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

7. 自然との関わり・生命尊重(領域「環境」)
自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚(領域「環境」)
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

9. 言葉による伝え合い(領域「言葉」)
先生や友だちと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

10. 豊かな感性と表現(領域「表現」)
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※これらの項目は、幼児教育の方向性を示したもので、到達目標ではありません。